

呼びつけるのなら一層早ふ呼び附けて、埒明けて呉れる方が勝しかも知れん……蛇の生ま殺しは叶わんなア……豪い呼びに来るのが晚いやないか……」

梯子段がガタツと云ふと、呼びに来られたのかと思ふてビクツとする。夫ふ斯ふする内に下では店を仕舞ふて皆寝て仕舞ふた様子……。

「ハテナ……。何事も無いとは可笑しい……。ハハア。明日請人呼んで話をつけて仕舞ふ腹かも知れん……ア、／＼詰らん事したなア……左様や一そ逃げて仕舞ふたる……もう斯ふ成たら何の道尻は上るのや。嫌やな事の一言も聴く丈け損や。……逃げる腹定めたら物は持てる丈け持て出にや、あとで取りに来られへん。着物の一番新しいのを斯ふ云ふ具合に三枚着て……其上から羽織を斯ふ二枚引掛けたる……ア、窮屈やなア。……莫入れを三ツ腰へ差して、矢立も斯ふ差してと……あの傘高ふ出して一昨日買ふた處や。あいつは持て往けんワ。あんな物質はなんたら宜かつたナ……財布は確かり内懐ろへ……ト待てよ……明日まア請人が来るワ……何をふ云ても最初の事や。以後充分慎しむなら今度の處は大目に見とこふと云ふ話に成らんとも限らぬ……其時に俺いを呼びに来て見ると、自分の物全部持て逃げて仕舞ふてる、ア、此の了見では以前から尻が据て居なんなのや。恐ろしい男やつたナと憎しみが掛る……左様や……矢つ張り廢めとこ。……着物も疊んで箆箆へ直しとこ。……さアどふやろナ……俺いの慾目かも知れんで。……彼んな處見附けられて、眞逆此儘使ふて貰える様な事は無

いやろナ……着て逃る方が得かいナ……いや矢つ張り疊んどこ……」

番頭夜通し一目も眠まへん、着物を疊んで直して見たり。出して着て見たり考え疲れて鳥渡ウツ／＼したかと思ふと、お詫が叶ふて店で精勤荷出しの指圖してる夢を見る。ア、宜かつたと思ふと目が醒める、チョツと又ウツ／＼とすると今度は警察で撲かれてる夢を見て、ビツクリして飛で起きよる。全で地獄でおます。……其う斯ふする内に夜が明けますと、番頭モウじつと仕て居られまへん。店へ飛で出るなり表の戸をガラ／＼。

「ア、番頭はん、豪い寝過ぎて濟んまへん、どふぞ私いに開けさしとくなはれ。」

「いや拘めへん／＼、お前等もつと寝て。」

「其んな事出来まつかいナ。ア、街頭掃くのは私の役だがナ、番頭はん帯貸しとくなはれ。」

「いや差支ない／＼、俺いが街頭掃いて水打つさかい、お前は帳場へ坐て帳合ひしとき……」

無茶云ふてます、店が片附くと番頭仕方なしに帳場へ坐りましたが、仲々帳合ひ處や無い、筆は持てる物の帳面の字がボーツとして、何が何やら解らしまへん、其の内に親旦那がお目醒めに成た様子、手水を遣ふてお看經が濟みますと、椽側近くへ座蒲團を敷かして一服お喫りに成ります。村田張の銀煙管を灰吐きへコーンと開けなはる音が、番頭の胸へコツーン。

「トホホホ……。なまいだ／＼。」